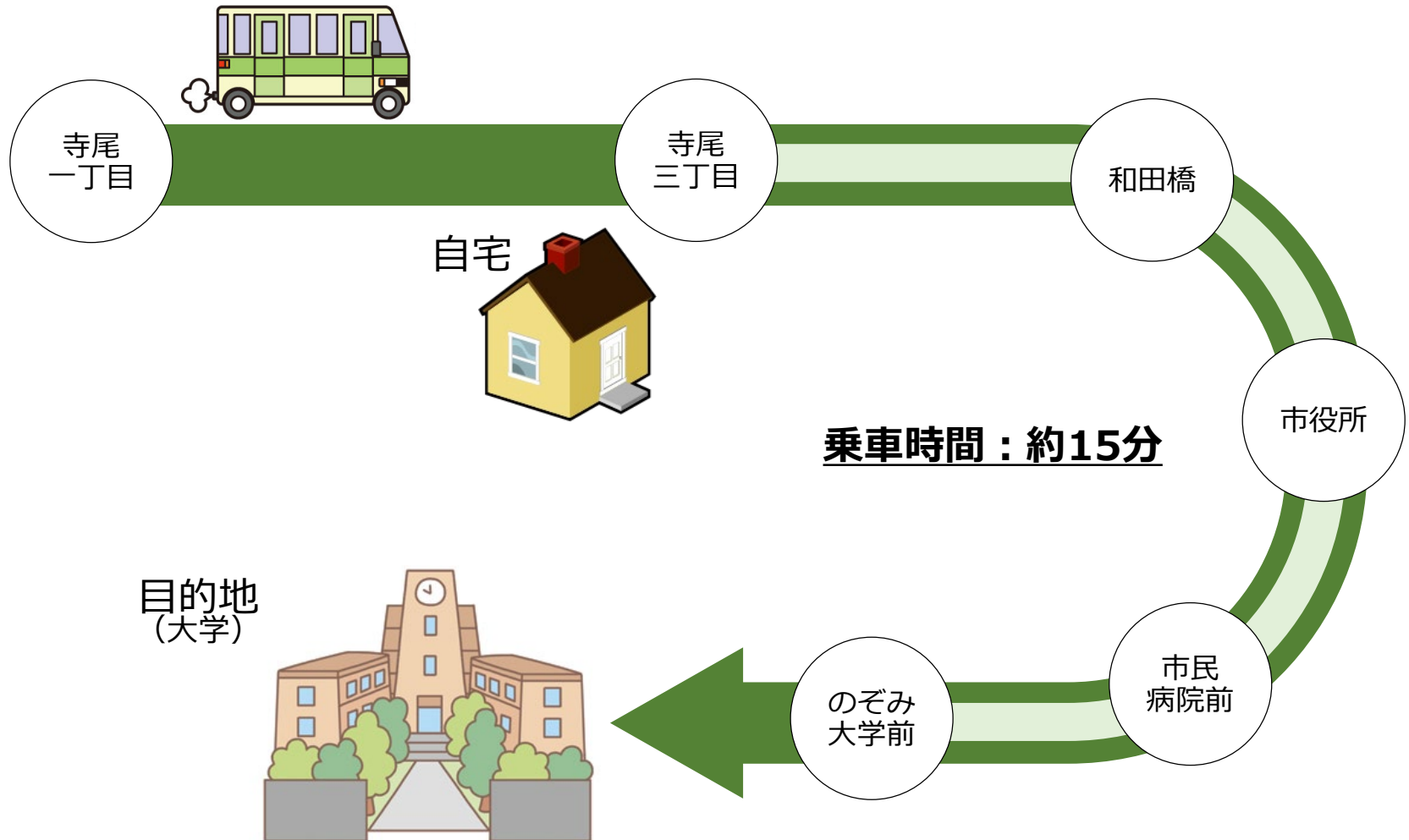


のぞむさんの休日

- ある天気の良い土曜日の午後のことです。のぞむさんは行動援護事業所のヘルパーと一緒に路線バスに乗って15分くらいのところにある大学構内に散歩に出かけました。
- あまり人のいない静かな構内の散歩道を歩き、学生食堂前にある自動販売機でジュースと小さなお菓子を買う。乗り物好きで食べることも大好きなのぞむさんの、休日のささやかな楽しみです。
- 長年続いていた週末のドライブがお父さんのケガで続けられなくなったのをきっかけに、継続可能な週末の過ごし方を考えようと、この散歩を取り入れてから早2ヶ月が経ちました。
- 毎回、出発時に外出の流れを写真カードを使いながら丁寧に説明していることもあり、のぞむさんもだいぶ慣れたようです。今ではヘルパーが訪問すると、嬉しそうにリュックサックを背負って家から出てくるようになりました。

のぞむさんの外出 | バスのルート



のぞむさんの外出 | 大学の構内



左上：バス停

右上：食堂前の広場

左下：自動販売機

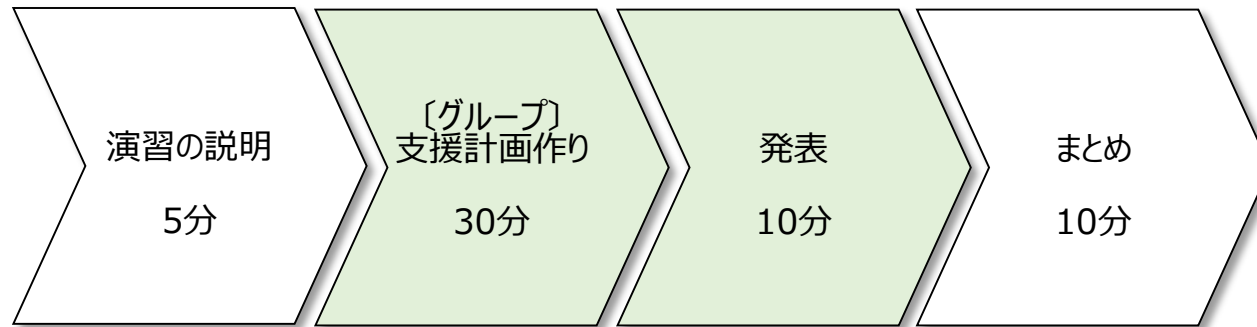
あるヘルパーの悩み

- のぞむさんの外出を担当しているヘルパーにはとても困っていることがあります。それは、のぞむさんが降りる停留所ではないのに降車ボタンを押してしまうことです。
- ボタンを押してしまうと降りずにはられません。仕方なく手前のバス停で降りることになり、混乱するのぞむさんを目の前にして途方にくれたこともあります。
- 今のところ、その場しのぎでボタンを隠したり遮ったりもしていますが、のぞむさんがイライラするだけであまり効果はありません。ただ座って着くのを待つのが苦手なようで、着くのを今か今かと待っている様子も見られます。
- のぞむさんは子どもの声も苦手です。バスの中でうまく過ごせずイライラしているときに、もしバスに小さな子どもが乗ってきたら…。悩む日々が続いています。

演習① | バス内の過ごし方を考える

- テキストに沿って、のぞむさんのバスの中での過ごし方について支援計画を考えましょう。
- 「司会」を①、「発表者」を②「記録」を③の人が行います。

【演習の流れ】



【使用する情報】

1. のぞむさんの基本情報（情報シート P1-P8）
2. のぞむさんの外出について（情報シート P9）
3. スライド「あるヘルパーの悩み」

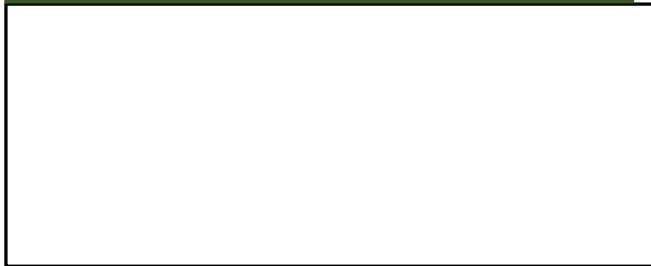
演習① | 4つのプロセスの作成

①～④のステップに沿って、グループで話し合いながら4つのプロセスを作成しましょう。ワークシート（WS-3）を使ってください。

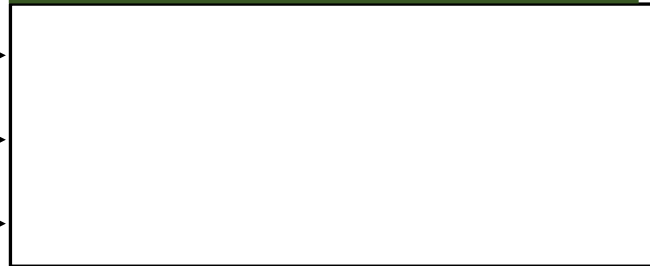
生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

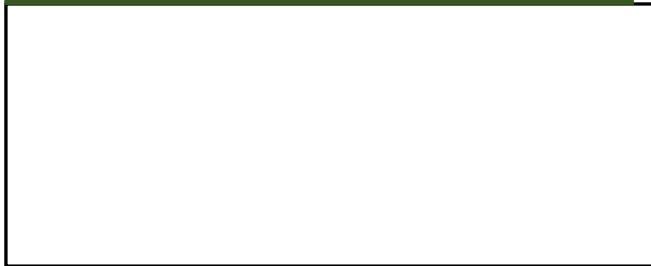
①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル



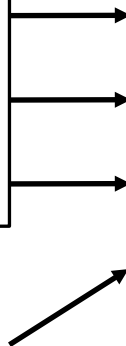
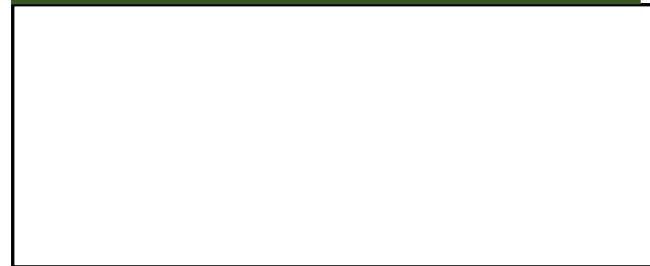
②障害特性を「強み」の表現に変換



③他の場面から「強み」のリスト追加



④「強み」を活かした新たな環境



演習① | 発表とまとめ (20分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は、4つのプロセスに沿って、どのような結論になったのかを簡潔に報告してください。

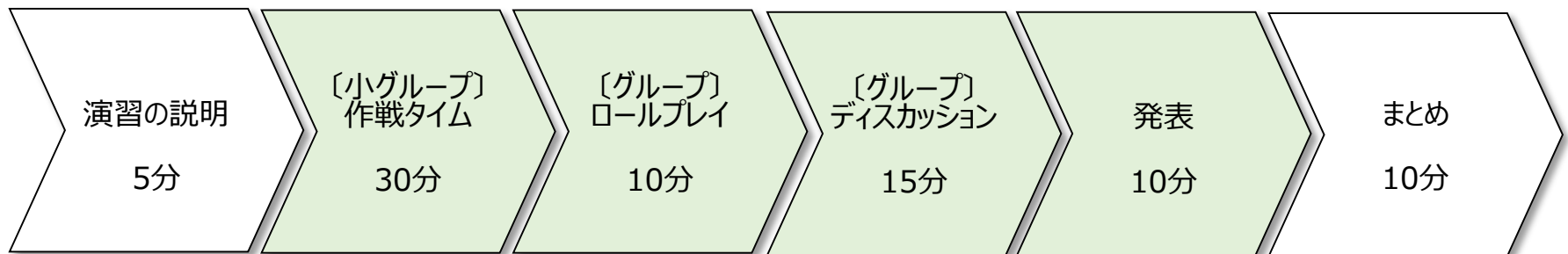
演習① | 記入例

A large empty rectangular box with a dotted border, intended for an example entry.

演習② | 支援の計画を伝える

- 4つのプロセスから得られた結果を「支援の手順書」にまとめます。
- 3人の小グループに分かれて、役割を決め、「支援の手順」を互いに伝達し合います。

【演習の流れ】



演習② | 作戦タイム (30分)

小グループと役割の確認

1. 奇数の番号の小グループ (①③⑤) と、偶数の番号の小グループ (②④⑥) を作ります。
2. 小グループには、「報告者 (③④)」「ヘルパーA (⑤⑥)」「ヘルパーB (①②)」の3つの役割があります。

支援の手順書を作成し、相手グループへの説明準備

3. 演習①で考えた支援の計画をもとに、「支援の手順書」を作成しましょう。適宜、ワークシート (WS-4) を使ってください。
4. 「支援の手順書」を使って **3分間** で相手グループのヘルパーに説明する準備をします。少なくとも「**根拠を示して**」「**わかりやすく**」の2点には留意しましょう。

演習② | ロールプレイ (10分)

1. どちらの小グループから報告するのかを決めてください。
2. 報告者は、作戦どおりに相手グループのヘルパーに説明をしましょう。時間は3分間です。(タイムキープは講師が担当)
3. 報告を受けた小グループのヘルパーは、報告者に対して質問や確認をしましょう。報告者は質問に対して簡潔に答えましょう。

ヘルパーA：具体的な状況をあげて、トラブルが起きたときの対応について質問しましょう。

例) 急に腹痛になった時にはどうしたらいいですか？

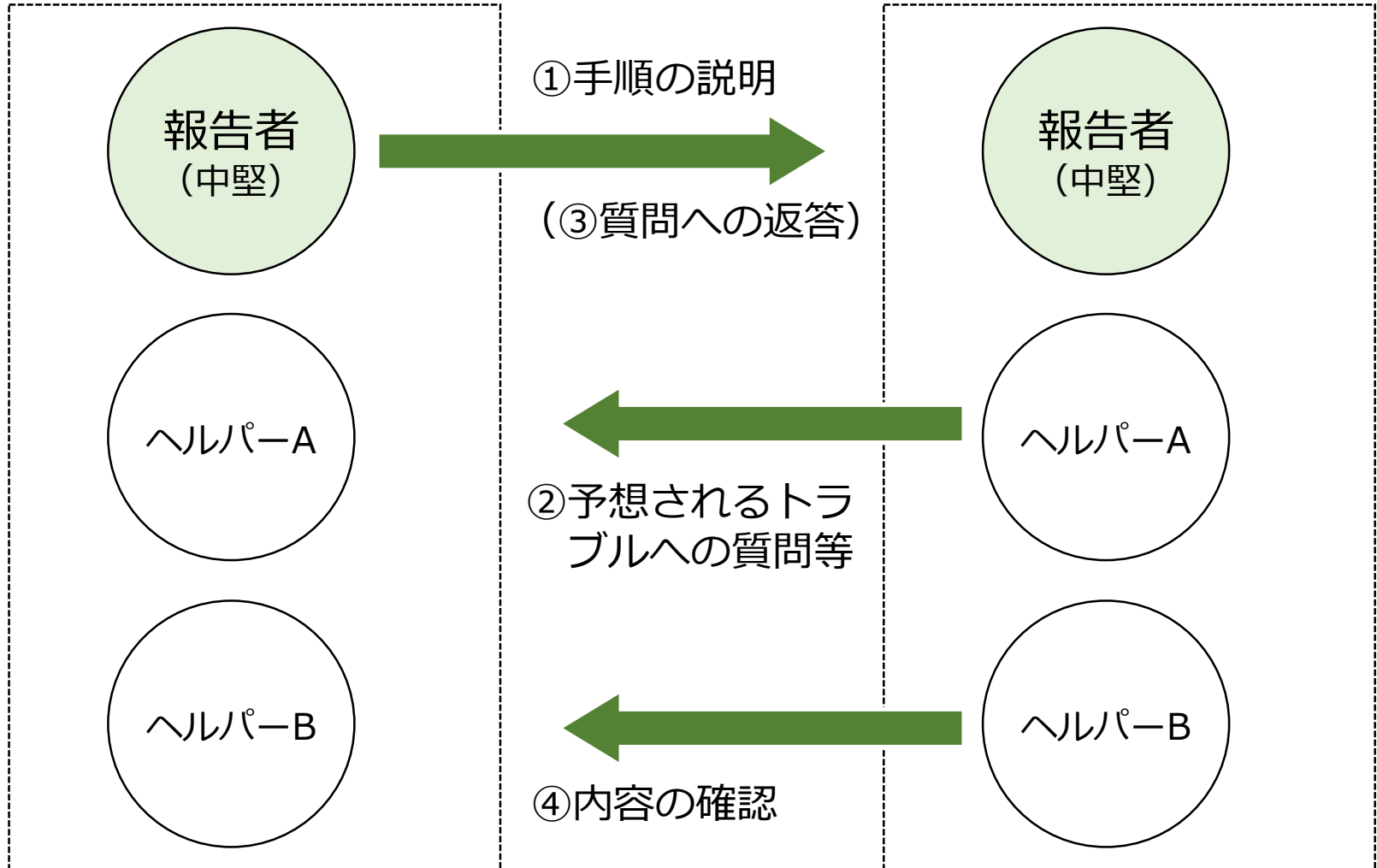
ヘルパーB：支援の手続きについて整理して、「○○ということですね」と確認をしましょう。

4. 小グループを交代して、同じように1～3を行ってください。

演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ

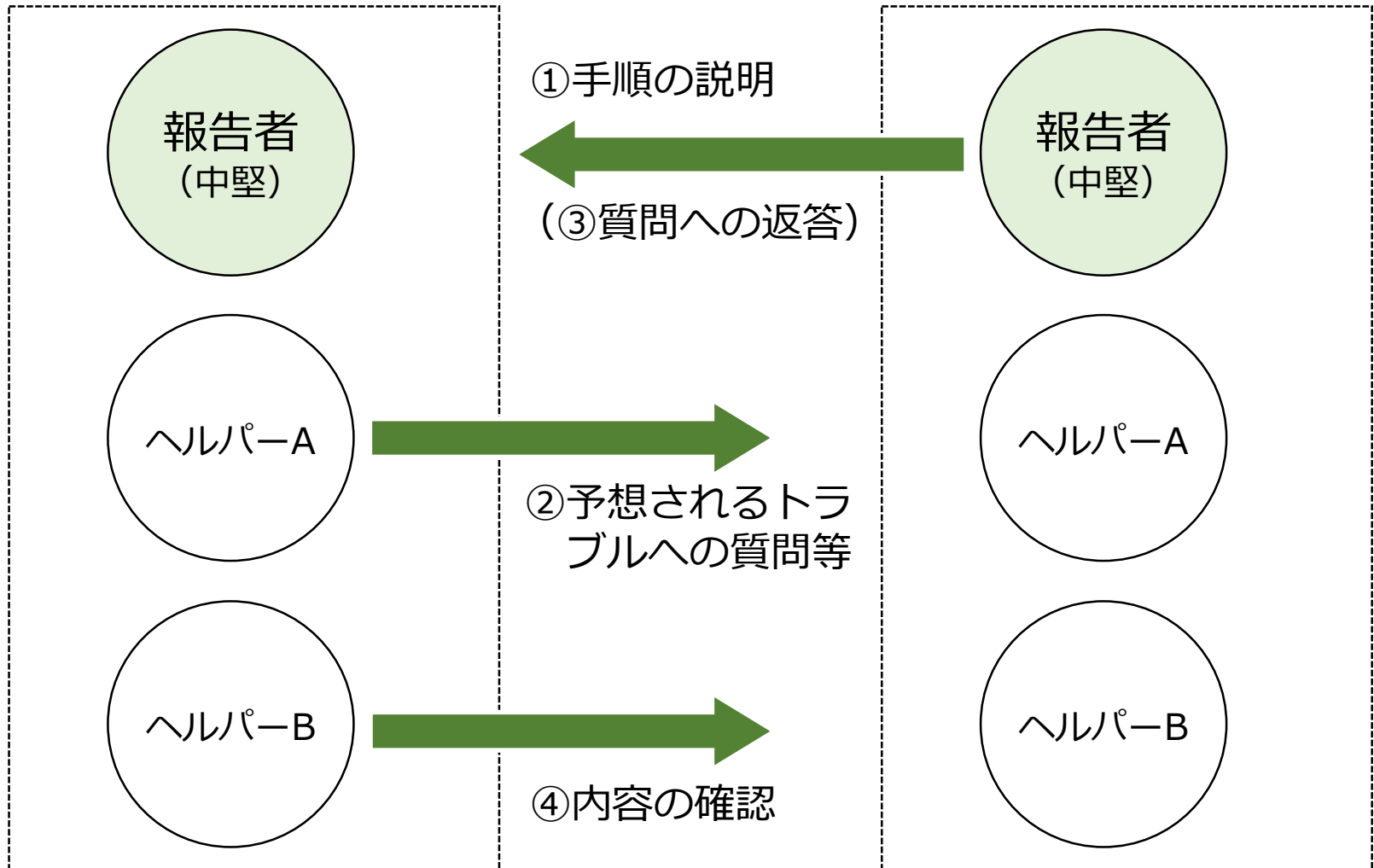
偶数グループ



演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ

偶数グループ



演習② | ディスカッション (15分)

1. ヘルパー役の人は、相手の説明で「分かりやすかった・良かった点」をあげてください（説明方法）。
2. 報告者役の人は、報告するうえで「難しかった点」をあげてください。
3. もう一度報告するとしたら、どの点を改善するかを考えてみましょう。

演習② | 発表 (10分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は各グループで話し合われた内容を全体に報告してください。

演習② | まとめ

※スライドに出す例示は、昼休憩時に**会場の外**に準備しておきます。必要な方はお持ち帰りください。

まとめ | (外出時の) 支援のポイント

【外出で失敗しないために】

- 障害特性や本人の行動特性に配慮した事前準備を念入りに
- 常に先手の支援で行動障害の予防
- 本人の疲労度に配慮 → 疲労に起因する行動障害
- 次回の外出に対するモチベーションに配慮
- 日常生活に戻るまで支援は終わらない

etc.

まとめ | 伝えるときのポイント

【手順書と説明のチェックポイント】

- 手順はシンプルか（対応が細か過ぎたり、手順が複雑すぎないか）
- 課題となる行動への対応方法が具体的に伝えられているか
- なぜそのような方法になったのかという意味（理由）が伝わっているか
- 本人の行動と支援の流れが整理されているか
- 記録の内容と方法が決められているか
- 2人で付くときの役割分担が決められているか

etc.

まとめ | 大切なポイント

- 対象者の障害特性や環境要因を考慮し、支援の手順書を作成する
- 直接支援を行うヘルパーや支援者に、正確に手順書の内容を伝える（相手が理解できるように伝える）

**支援の手順書を作成することがゴールではなく、
直接支援する人たちに分かりやすく伝えること、
それが私たちの仕事（求められていること）です**